

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：グローバルエンゲージメントセンター		部局長名：横井 篤文
目 標		目標に対する達成状況（成果）及び新たに生じた課題等
①教育領域	関連する 中期計画の番号	
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
②研究領域	関連する 中期計画の番号	
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献（診療を含む）領域	関連する 中期計画の番号	
		社会貢献（診療を含む）領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	
		センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
1. ユネスコチェアの教育研究機能を高めるため、 <u>UNESCO本部並びにユネスコチェア間の連携協業活動を実施するとともに、国連をはじめとする国際機関を通じて本学のSDGsに関する取組みを発信する。</u>	(1-2)	1.海外のユネスコチェアと連携した「国際共修プログラムのESDルーブリック」の開発に着手し、「ESDに特化した統合国際共修ルーブリック」の策定に向けた準備を進めた。また、 <u>国連大学が主催する国連のイニシアチブ事業「高等教育機関サステナビリティイニシアチブ」(HESI)の学長会議に本学学長が登壇、大学の取組を発信した。</u>
2. SDGs国際教育プログラムの充実と海外からの優秀な研究者及び大学院留学生の受入れ促進のため、 <u>UNCTADとの包括連携協定に基づき、短期研究者受入れプログラム（途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース）と長期プログラム（途上国からの若手研究者のための博士課程学位プログラム）を、研究科と連携しながら実施する。</u>	(7-1)	2.国連貿易開発会議（UNCTAD）との包括連携協定に基づく長期プログラム（途上国からの若手研究者のための博士課程学位プログラム）では、環境生命自然科学研究科の博士後期課程において、タンザニア、フィリピン及びガンビアからそれぞれ1名の学生を受け入れた。短期研究者受入れプログラム（途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース）では、今年度より中南米に地域を拡大、受入れを開始した。また、プログラムの5周年を記念し、受入れ研究者のネットワーク形成のSNSをUNCTADが構築することが決まり、CSTDインターセSSIONナルパネル会合でローンチイベントを行い、日本政府をはじめアフリカ・南米・ASEANの政府代表者がスピーチを行った。
3. <u>国連大学と連携を強化し、国連大学SDG大学連携プラットフォームや国連高等教育サステナビリティイニシアティブ（HESI）を通じて取組みを共創する。</u>	(1-2)	
4. 「ESD for 2030」達成への岡山モデルの普及・発展を図るため、ESDプロジェクト発足から20周年を迎える <u>岡山市と連携し、岡山におけるESDのさらなる活性化に向けた取組みを実施する。</u>	(1-2)	3.国連大学と連携した主な成果は以下のとおり。 ・SDG大学連携プラットフォーム（SDG-UP）では、サステナブルキャンパス分科会の座長を3年務め、日本の大学発の「サステナブルキャンパス憲章」を起草、今後、SDG-UPの年次会合シンポジウムで発信予定とするほか、国際的な高等教育機関の会合等で発信が期待される。 ・ハイレベル政治フォーラムで開催される国連「高等教育機関サステナビリティイニシアチブ（HESI）」グローバルフォーラムでの学長登壇により大学の取組を発信。また、SDG-UPでもマネジメント分科会が企画する国・公・私立の3大学の学長対談に本学が国立の代表として登壇した。国立では、北海道大学に次いで2つめの大学。 ・国連大学主催、岡山市ホストで開催したグローバルRCE会議並びに上記の連携を通じて、国連大学との大学間協定を締結した。これにより、協定校として認知、連携を深めた。
5. SDGsを先導する世界的次世代リーダー育成のため、 <u>One Young World本部・日本委員会並びに岡山県教育委員会と連携しOne Young Worldサミット及び文部科学省が主催するユネスコ研修プログラムをはじめとするトップレベルの学生派遣に取り組む。</u>	(1-2)	4.国連大学主催、岡山市ホストで開催したグローバルRCE会議に双方から要請を受けて企画、実施、運営サポートなど国際会議実施協力を行った。（RCEは、ESDの育成拠点として国連大学が認定している地域）これにより、海外からの参加機関へ大学の取組を発信した。 5.One Young World ミュンヘンサミットに大学生2名を選考し参加、岡山県との連携事業、「夢育イニシアチブ事業」により高校生1名を選考、参加し、岡山県と連携して派遣事業を行っている。 また、文部科学省「ユネスコ研修プログラム」派遣事業により、今年度も1名ユネスコ本部に派遣している。

注1） 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2） 自己評価による達成度（5～1）は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。